

令和4年度第1回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年2月24日（金）午前10時15分～午前11時30分
- 2 開催場所 射水市役所大島分庁舎3階大会議室
- 3 出席者 岩田会長、川腰副会長、大野木委員、太田委員、釣谷委員、
宮腰委員、原田委員、白川委員、楠委員、田中委員、石井
委員、長谷部委員、安田委員、渡辺委員、野開委員、石黒
委員、辻委員、有田委員（代理毛利氏）、片岡委員、篠田委
員、津田委員、長谷川委員
- 事務局 松下市民生活部次長、明野生活安全課長、保田課長補佐、
土橋主任、佐伯主任
- 欠席者 上野委員、玉巻委員、山倉委員、石橋委員

4 会議概要

(1) 組織運営事項

① 会長互選

会長 神奈川大学経済学部教授 岩田氏

② 副会長指名

副会長 射水市地域振興会連合会副会長 川腰氏

(2) 射水市地域公共交通網形成計画の進捗状況について（報告）

資料1、資料1-1

（事務局説明概要）

① コミュニティバス等の経路や運行内容の見直し

令和3年8月の路線再編とダイヤ改正後の運行実態に合わせ、バス停間の所要時間の見直し等を行った。また、コミュニティバス路線新設等に伴う、デマンドタクシー運行エリアの見直しを行った。

② 地域あいのり移動支援実証事業の実施

高齢者等の近距離移動手段の確保に取り組む地域振興会を支援した。実施主体は黒河地域振興会で、利用実績は資料1-1の3ページ目のおり。

③ 越中大門駅エレベーター設置に係る基本設計の実施

高齢者や障がい者をはじめとする駅の利用者が安全に安心して利

用できるよう、令和3年度に越中大門駅周辺地区バリアフリー基本構想を策定し、越中大門駅へのエレベーター設置をはじめとした、バリアフリー化に向けた取組を推進しており、令和4年度には、越中大門駅エレベーターこ線橋新設に係る基本設計を実施した。

④コミュニティバスへのデジタルサイネージ設置

コミュニティバス車両にデジタルサイネージを設置し、企業広告や行政情報を表示することで、利用者へのサービスの向上と、運行財源の確保を図っている。

⑤コミュニティバスへのキャッシュレス決済の導入

これまでのスマホ定期券に加え、令和4年12月1日から、キャッシュレス決済を導入した。

⑥コミュニティバス等の便利な利用方法に係る出前講座の実施

コミュニティバス等再編後の運行内容について、オーダーメイド時刻表等を用いて便利な利用方法について説明した。

⑦運転免許自主返納支援事業の申請期限延長

高齢者運転免許証の自主返納をより一層促進するために、申請期限について、運転免許証を返納してから30日以内だったものを、1年以内に変更した。

⑧自動運転課題調査の実施

将来的に懸念される運転手不足等に対応するため、コミュニティバス等への自動運転技術の導入を見据え、公道での実証実験を実施するための課題を調査した。

(委員)

QRコード決済(PayPay)について、車内で決済をして、紙の券を購入するということか。

(事務局)

1日乗車券等を購入する場合は、そのとおりである。

(委員)

生活安全課の窓口ではやらないのか。

(事務局)

例えば、1日乗車券だと、購入日が有効期限ということもあり、窓口に来るまでもなく、行きの車内で購入して、帰りも使うという形になると思われる。

(委員)

地域あいのり移動支援実証事業については、黒河地域振興会が初めてになるのか。他の地域での例はあるのか。

(事務局)

現時点では黒河地域振興会だけである。

(副会長)

お出かけ先3か所について、他の地域は、どのようなところを指定していくのか。

(事務局)

本事業では、当該地域振興会内であれば、商業施設や医療機関等は全て乗降場所に設定できる。また、当該地域振興会外だと、交通結節点から一か所、医療機関から一か所、事業を実施する地域振興会が選ぶことになる。

(委員)

黒河地域振興会の運行日時をみると、不便な感じがする。もう少し細かい案を作ってもいいのではないか。

(事務局)

利用時間については、黒河地域振興会、地元のタクシー事業者である小杉タクシー、射水市で内容を検討していくなかで、小杉タクシーの他業務の都合も考慮して決められたもの。

(委員)

障がい者の利用はあるか。また、随行者は乗れるのか。

(事務局)

障がい者の利用は把握していない。介助する方については、黒河地域振興会の例では、割引等はなく、通常の料金を支払って、乗車してもらっている。

(会長)

利用人数と利用回数の数値が異なる理由はなにか。

(事務局)

利用内訳は延べ利用回数である。例えば、令和4年6月でみると、2人の方が、合わせて8回利用していることになる。

(会長)

利用人数が少ないと思うが、黒河地域から改善点などはあがっているか。

(事務局)

黒河地域振興会からは、当初、あいのりタクシーの利用を恥ずかしいと感じる方もいて、利用者は少なかったが、最近では利用されはじめていると聞いている。

(委員)

市の補助金40万円の根拠はなにか。

(事務局)

先進地の事例や実績を参考にしたほか、対象地域で想定される利用人数等を考慮した。

(委員)

あいのりできているのか。

(事務局)

黒河地域振興会からは、あいのり率は高くないと聞いている。

(委員)

運行時間は1時間ごとよりも、何時から何時の間は利用できるという形にしておかないと、乗務員確保の観点からも難しい。今後、他の地域振興会で話があるときは、この観点からも住民の方と掘り下げて意見交換する必要がある。

(3) 今後の取組について

資料2

(事務局説明概要)

①カーシェアリング実証実験

令和3年8月策定の射水市DXビジョンの中では、「自家用車を所有・運転しなくても生活できる便利な地域交通」の実現を目指している。カーシェアリングの実証実験を通して、その利用実態を調査し、地域の交通手段としての可能性を検証する。

②AIオンデマンドバス実証運行

効率的で利便性の高い持続可能な公共交通の実現に向け、定時定路線運行とは違い、利用者の有無にかかわらず走行するといった無駄を省くことができ、また、路線にとらわれることなく乗降ポイントを設定できる「AIオンデマンドバス」の実証運行を行い、効果を検証する。

(委員)

カーシェアリングはどのような人を対象にしているのか。

(事務局)

小杉駅周辺については、周辺住民はもちろんのこと、ビジネスや観光目的で来訪される方、パスコについては、県立大学の学生や周辺住民を想定している。

(委員)

行けるのは市内だけか。

(事務局)

市外も行ける。

(委員)

都市部では一般的だと思うが、あえて射水市が取り組む理由はなにか。また、市の負担はどのようになっているのか。

(事務局)

令和3年度に射水市DXビジョンを策定しており、シェアできるものはシェアして、脱炭素を目指しながら、色々な選択肢を提供したいと考えている。

また、今回はネットヨタ富山(株)の協力のもと、射水市の負担はなしで、実証実験を行う。

(4) その他

(事務局説明概要)

本協議会で協議して策定した現行の地域公共交通網形成計画は、令和6年度までの計画であることから、来年度には、次期計画となる「地域公共交通計画」の策定に向け、市民アンケート等の調査業務に着手する予定である。

このことから、来年度は、調査内容の確認や調査結果の報告など、本協議会を複数回開催することになると考えており、委員の方々には引き続き、ご協力をお願いしたい。開催の日程等については改めて案内する。

(委員)

協議会の内容が専門家でないと分からないようなものもある。事前に事業者や委員の方に周知徹底をしてもらった方が、会議の意味があるかと思う。もう少し実効性のある会議のやり方を考えてほしい。

(事務局)

市の施策については、このような会議で全てをお話しするのは時間の制約もあり難しいところもあるが、地域交通は取組むべきことや課題も多く、交通事業者との対話や地域のニーズや特性も踏まえて、今後も調整、打合せしながら進めていきたい。

(会長)

人数も多く、発言しにくい状況になっている。市民のためになるように、工夫して活発な議論をしていく必要がある。国や県に頼らざるを得ない今の状況は、果たしてそれは持続可能な状況なのか。市民に乗っていただけるような、事業者が参加したくなるような仕組みを作っていく必要がある。

(5) 閉会